

草創期に比べて、現在の透析治療に関する機器や技術は格段に進歩し、当時は想像もできなかった諸薬剤も登場した。さらにはいくつかの主要な合併症の治療ガイドラインも示されており隔世の感がある。しかしながら現在でも慢性維持透析患者の平均余命は、一般人のおよそ半分である。そのギャップを埋めるには革新的な治療技術や、新たな発想の薬剤の研究・開発が必要となろう。しかしそれらが臨床現場に登場するまでには「百年河清を待つ」とは言わぬまでも、容易なことではあるまい。そこで、現在ある技術・薬剤・知識を最大限にうまく活用することが求められる。

本号ではそのような観点から、「どうすれば患者の生命予後を改善できるか」について多面的なアプローチから、現時点で推奨される診療計画を示すことを試みた。あくまでもこれらの推奨や発想

は現時点での技術・薬剤・知識をベースにしたものであり、将来的に一部は陳腐化されるものも含まれるかもしれないし、そうあって欲しいものである。しかし示された診療計画を目前の患者にどう適用・提供するのかは、結局のところ主治医を中心とする医療スタッフであることを自覚したい。

ところでまたぞろ一部のマスコミから「日本の透析患者は恵まれすぎている」とのコメントが流出した。高齢化が進行しつつもわが国の透析患者の生命予後は、「自国ファースト」「地球温暖化はでっちあげ」と叫んでいる国よりは明らかに良好である。戦争・テロ・難民などでの非業な死のみならず、疾病からも国民を護ることは国家の原点と考えたい。

〔鈴木正司〕

(本特集共同企画：原田孝司)

2017 年 (Vol. 33) 特集のご案内

- | | |
|---|---|
| No.① 開かれた透析医療
— Integrated Care の具現化 | No.⑥ 創造する透析医療—新たな modality への期待と課題〔特大号〕 |
| No.② CKD 貧血ガイドライン
— 二度の改訂を巡って | No.⑦ 〔増刊号〕透析患者の侵襲性治療 |
| No.③ 透析医療に携わる看護職の人材育成とチーム創り | No.⑧ 予後改善を目指した透析医療 |
| No.④ 透析患者の薬剤処方
— ポリファーマシーを考える〔特大号〕 | No. 9 透析医療における情報技術の進歩・展開 |
| No.⑤ オンライン HDF—展開と課題 | No.10 維持透析患者の喪失感—理解、克服への支援 |

(既刊は○)

臨牀透析® Vol.33 No.8

© 2017 年 7 月 10 日発行
定価：(本体 2,400 円＋税)

年間予約購読料は前金にて弊社あるいは書店宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、弊社または書店までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-64 神保町協和ビル

営業直通電話 (03) 3291-3901 (代) FAX (03) 3291-3904

編集直通電話 (03) 3291-3971 (代) FAX (03) 3291-3377

e-mail dialysis@nmckk.co.jp

URL <http://www.nmckk.co.jp>

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 シナノ印刷株式会社

・ Published by Nihon Medical Center Inc. ©2017, Printed in Japan

・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は (株) 日本メディカルセンターが保有します。

・ JCOPY® 出版者著作権管理機構 委託出版物 >

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構 (☎ 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail : info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

■ 広告申込所 / 株式会社 文栄社 〒 113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1 電話 (03) 3814-8541